

かわらばん

令和元年9月

第243号

ホームページ



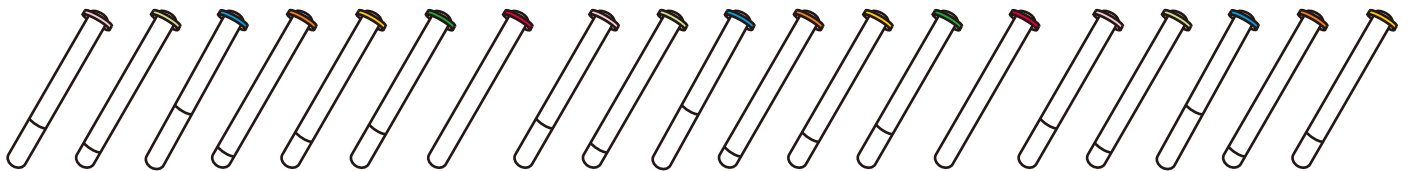
採血管って何でいっぱい種類があるの？

臨床検査技師長 田中 秀磨

病棟や採血室で採血される時、何種類かの容器（採血管）に血液を採取された経験のある方はたくさんおられると思います。何で、そんなにたくさんの容器（採血管）に血液を小分けしなくてはいけないの？

そもそも血液で調べられる検査項目は2000種類以上あります。そのなかでもよく検査される項目は200種類ぐらいと言われています。そこで、色々な血液検査のなかには、血液が固まってしまっては検査ができない項目がたくさんあります。本来、血液は体の中では固まらずに流れていますが、体の外に出ると固まろうとします。その固まろうとする血液を固まらさないで保存できる薬剤のことを抗凝固剤といいいます。それらはたくさんの種類があり、それぞれ違った方法で血液を固まらせずに液状のまま保存できますが、使い道が限られています。例えば、白血球数や貧血の検査をするときに使う採血管のなかに入っている抗凝固剤は、血液中のカルシウムと結合することによって、血液が固まるのを防いでいます。しかし、その血液で血糖値の検査ができるかと言えば、できないのです。血糖値は採血後からどんどん採血管内で値が上がってきますので、それを防ぐために別の抗凝固剤が入ってる採血管で採取する必要があるのです。悲しいかな1本ではできないのです。このように、抗凝固剤を使用して採血する場合には、検査できる項目が限られてきますので、たくさんの種類の採血管が必要になってくるのです。

帯に短し、タスキに長し！ ちょっと違うな？（笑）



クライオバイオブシーについて

呼吸器内視鏡内科 岡本紀雄

気管支鏡の技術はどんどん進化しています。肺の病変を検査・採取するために開発された気管支鏡ですが、これまでの検査は「鉗子」という道具を中心に行っていました。これは小さいマジックハンドのような形状で、気管支鏡を通して挿入し肺の病変部をかじり取るように採取して取ることが出来ます。しかし、鉗子のサイズが内視鏡の穴を通るものに制限されるため小さな検体しか取ることができないこと、そしてかじり取った検体が挫滅してしまうため元々の組織の様相が完全には読み取りにくいことが欠点でした。

今回ご紹介するクライオバイオブシーはこれらの欠点を解消する特徴を有しています。クライオは冷凍、バイオブシーは生検という意味で、日本語に訳せば「冷凍生検」となるでしょうか。使用するのはクライオプローブという細い棒状の装置で、これを鉗子と同様に気管支鏡を通して

採取したい病変に挿入します。スイッチを押すとプローブの内部にガが流れることで先端を瞬時に-40℃まで冷却する仕組みになっています。ここまで冷えると周囲の組織は凍ってプローブに引っついてしまうので、そのまま一気に気管支鏡ごと引き抜いて採取することができます。明らかに鉗子よりも大きく挫滅の少ない組織を採取することができます。間質性肺疾患や肺癌の診断に有効であることが多くの論文で報告されています。当院でも既に導入済みで、必要なケースで使用し診断率の向上に役立てています。

血管撮影検査について

放射線科 砂山正典

血管撮影検査はAngio撮影（アンギオ撮影）とも呼ばれカテーテルという細いストロー状の管を動脈や静脈に挿入し、X線透視画像を見ながら目的の部位までカテーテルを進めていき、直接造影剤を注入して撮影することで、血管の走行や状態（狭窄・閉塞など）、腫瘍の染まりなどを診断する検査です。従来はこの検査がほぼ唯一血管の情報を調べる方法でしたが、最近はより患者さんの身体に負担の少ない、X線CTやMRIを使って同様の情報を得る方法が登場し、カテーテルを用いた血管撮影は減少しており、現在は血液の流れの速さの情報や選択的な撮影など、より詳細な評価が必要な場合に用いられています。

それでは、この血管撮影法は無くなってしまいう手技なのでしょうか？実は、現在この技術は診断から治療の方法へと変化しています。IVR（アイ・ブイ・アール）という言葉をご存じでしょうか。日本語では「画像下治療」と言われ血管撮影法の手技を応用し、標的となる病気の治療を行います。外科手術のようにおなかや胸を切らずに、体の奥にある臓器や血管の治療ができる方法で、患者さんの体への負担が圧倒的に少ないのが特徴です。血管をたどって目的の部位に到達し、細くなったり詰まったりした血管の修復や、腫瘍に対する高濃度の薬剤の注入及び栄養血管の遮断、喀血の止血治療などを行うことができます。また交通事故などでの、体の中の出血を止めるのは外科手術でも簡単ではありませんが、IVRでは血管撮影で血液が漏れている場所を探しだし、すぐに止血することができます。救命医療には不可欠な手技となっています。

このようにIVR治療は大変メリットの多い治療法ですが、一般的に治療中には深い麻酔は行いませんので、少しの痛みや、体の動きの制限など、多少の苦痛もあるかと思います。スタッフ一同全力でサポートいたしますので、どうぞご安心ください。



◆◆◆9月の教室案内◆◆◆

◆カンガルー教室	9月 4・11・25日	午後1時30分～	第1会議室
◆アトピーカレッジ	9月 6・13・20・27日	午前10時～11時	第1会議室
◆アトピー教室	9月 6・13・20・27日	午後2時～3時	第2会議室

◆◆◆10月の教室案内◆◆◆

◆カンガルー教室	10月 2・9・23日	午後1時30分～	第1会議室
◆アトピーカレッジ	10月 4・11・18・25日	午前10時～11時	第1会議室
◆アトピー教室	10月 4・11・18・25日	午後2時～3時	第2会議室